

循環器内科のご紹介

循環器内科 医長 : 谷口 琢也



循環器内科では、主に心臓や血管に関する病気を扱い、地域医療の一翼を担うべく、経験に裏打ちされた診療とエビデンスを意識した診療をバランスよく実践できるように心がけております。当院では心臓血管外科と連携して、目の前の患者さんにとっての最適な治療を多職種(看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、臨床工学士、ソーシャルワーカー)で考え、トータルマネジメントできる体制を整えていますので、動悸、息切れ、胸部症状、ふらつき、間欠性跛行などの症状があり、精査が必要と思われた際には、ぜひ一度ご相談頂けましたら幸甚です。

当院では、毎日心エコー図カンファレンスを開催し、その日のうちに動画を確認してソノグラファーとの意見交換および情報共有を行っています。

急性冠症候群に関しても24時間365日対応可能です。安定狭心症に対するカテーテルインターベンションは成熟期を迎えており、320列ADCTで冠動脈の解剖学的な評価を行い、負荷試験できちんと機能的な心筋虚血を証明して、バルーンや薬剤溶出性ステントを用いた治療の適否を決定しています。閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療も長期予後を見据えた治療戦略を選択するよう心がけております。

不整脈に対するカテーテルアブレーションのニーズは近年ますます増加しており、当院では発作性心房細動等の上室性不整脈のみならず、心室性不整脈への対応も可能です。ループレコーダーやペースメーカー等の植え込みデバイスの可否に関しても、ご相談下さい。

心不全は「心臓が悪いために、息切れやむくみがおこり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」です。2017年10月にわかりやすい定義がガイドラインで示され、弁膜症による高齢心不全患者に対する受診勧奨がCMで流れたり、開心術を行わずにカテーテルで弁膜症の治療ができるようになったり、心不全療養指導士という学会認定資格が登場したり、今まさに心不全診療にスポットライトが当たっています。心不全に適応拡大されたSGLT2阻害薬、血圧を下げずに心拍数を下げるイバブラジン、ナトリウム利尿ペプチドの効果を引き出すサクビトリル・バルサルタンなど、心不全診療を行う上で薬剤の選択肢も増えており、当院が力を入れてきた外来リハビリテーション、多職種連携にこれらの新しい治療を取り入れ、目の前の患者さんの予後・QOL改善を目指して、日々の診療を行って参ります。人生100年時代といわれている昨今、心不全をはじめとする循環器疾患の発症リスクを低減する上で、生活習慣病への早期介入は不可欠です。健康寿命を延伸する上で、シームレスな病診連携・病病連携がきわめて重要ですので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



栄養部のご紹介



栄養部 技師長:西田 なほみ



栄養部は医療技術局に属し、診療部長以下、病院職員と委託職員で構成されています。

主な業務は、入院時食事療養制度に基づく入院患者さんへの食事提供業務、栄養管理業務と入院患者さん及び外来通院患者さんへの栄養指導業務です。

入院患者さんに提供する食事は、主食の米に「滋賀県産コシヒカリ」を使用し、また、お正月やひな祭り、クリスマスなどのイベントに合わせた行事食も提供しています。

栄養状態に問題がある入院患者さんには、食事の内容や量の調整を行ったり、通常の食事に栄養補助食品を追加したりして、栄養状態の改善を図ります。

栄養指導業務は、管理栄養士が医師の指示のもとに実施しており、対象疾病は、糖尿病、腎臓疾患、消化器疾患、循環器疾患、がん、摂食・嚥下機能低下、低栄養状態など多岐にわたります。最初に、食事習慣等の聞き取りを行い、その上で、患者さんのライフスタイルを考慮した「継続可能な食事療法」の提案ができるよう心掛けています。

この他に、栄養サポートチーム、糖尿病チーム(糖尿病教室、糖尿病透析予防指導、糖尿病予防活動、患者会活動を含む)、心臓リハビリチームなどの院内チーム医療にも携わっています。

我々栄養部員は、これからもより多くの患者さんに楽しみにしていただける食事の提供に努め、また、栄養指導業務や栄養管理業務の面では、よりの確なサポートができるよう研鑽を積んで参ります。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



●厨房で業務中



●栄養指導室で集合写真



栄養指導室が
移転しました

消化器内視鏡センター側

別館 1階

本館側

栄養指導室

RI検査室

栄養指導室

リハビリテーション部

第二駐車場



2年目研修医 note

- ①名前: 池田 智紀(いけだ とものり)
- ②出身大学・卒業年度: 滋賀医科大学・平成 30 年度卒
- ③趣味: ドライブ
- ④医師を目指した理由: 人と向き合える仕事がしたかったから
- ⑤どんな医師になりたいですか?: 患者さんのよりよい暮らしとともに考えられる医師
- ⑥研修医2年目の目標: 来年度に向けて技術と知識を高めていきたい
- ⑦地域の先生方へのメッセージ:

まだまだ未熟ではありますが、長くお世話になっている滋賀の医療に少しでも貢献できるよう努力したいと思いますのでよろしくお願いします



エコークイズ ~この画像で何を考えますか?~

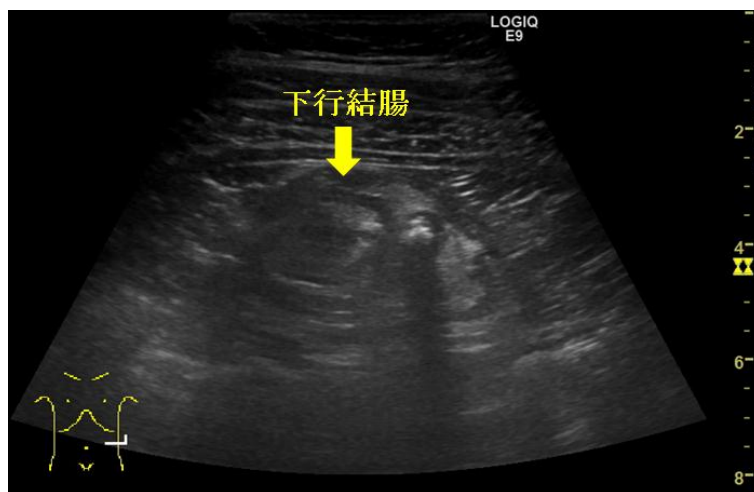
出題: 臨床検査部

20 代 男性

既往歴 : 特記事項なし

主訴 : 左側腹部痛(軽度の筋性防御あり)

血液検査 : 白血球数 10500/ μ L、CRP 0.76mg/dL

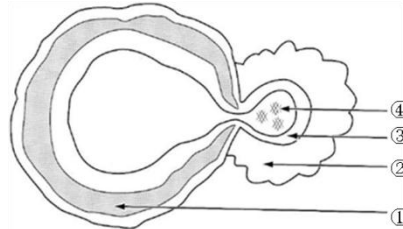
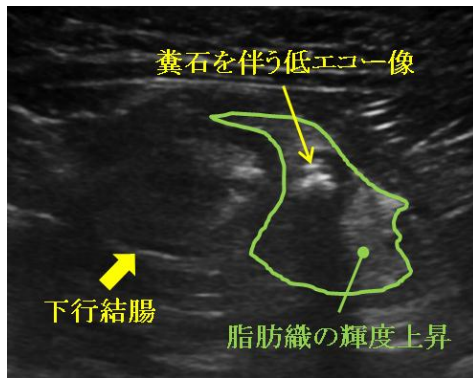


解答は次ページにあります。



エコークイズの解答

下行結腸から外側方向に突出する低エコー像を認めます。
内部には音響陰影を伴う高輝度エコー像が見られ、糞石と思われます。
周囲脂肪組織の輝度上昇を認め、憩室炎が疑われます。
腹部単純 CT 検査でも同様の所見であり、憩室炎と診断されました。



- ①固有筋層(低エコー層)
- ②憩室周囲に高エコーを呈する脂肪組織
- ③憩室の炎症(場合により膿瘍形成)
- ④憩室内に見られる高エコー(浸出物および糞石)



MSW アイコさん

作・画 まきろん



だより内に が 5ヶ所登場しています。ぜひ探してみてください。疫病退散。

※マスクは外して描いています。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による診療状況

2020年10月1日(木)時点

診療科	内 容
緩和ケア科	●9月24日(木)より緩和ケア病棟および入院・転院を目的とした緩和ケア外来を再開しております。
耳鼻咽喉科 頭頸部外科	●基本的に診療制限はしていませんが、手術等一部待機頂く場合がございます。



地域医療連携室より

和栗モンブランや栗蒸羊羹が店頭に並ぶ季節がやってまいりましたがいかがお過ごしでしょうか。
地域医療連携室で受付業務を担当しております鹿島です。
窓口に来られた方がほっと安心できるような対応を心がけております。
おいしい物を食べ、楽しいことを考え、心に余裕を持ってがんばっていききたいと思います。
よろしくお願いします。

地域医療連携室：鹿島 恵

